

# 薬物療法

マネージメントの  
こつ

## 》がん薬物療法による 末梢神経障害(CIPN)への対策 ～手術手袋による効果について～

古武 剛

京都大学大学院医学研究科乳腺外科学

### 1 CIPN 対策の現状

日常臨床において抗癌剤による末梢神経障害(chemotherapy-induced peripheral neuropathies : CIPN)の症状緩和目的にさまざまな投薬がなされていますが、その効果については明らかではありません。投与される治療薬としてビタミンB<sub>12</sub>製剤、プレガバリン、牛車腎気丸、デュロキシセチン、非ステロイド性消炎鎮痛薬、オピオイドなどが挙げられます。しかし、実際に臨床研究で効果を証明されたものはデュロキシセチンのみであり、2017年に日本がんサポーターブケア学会が出版した『がん薬物療法に伴う末梢神経障害マネージメントの手引き 2017年版』でも、他の治療薬についてはいずれも「有効性は明らかでない」としています(表1)<sup>1)</sup>。また、デュロキシセチンについては眠気などの有害事象や抗癌剤との相互作用に注意が必要です。このようにCIPNの有効な治療方法が限られているた

め、主に原因となる抗癌剤の変更、減量、中止で対応しているのが現状です。

### 2 CIPN 予防の検討

CIPN予防に関して興味深いデータがいくつか報告されています。冷却グローブ・ソックスやサージカルグローブによりCIPNの頻度や症状を軽減したというものです。これらは冷却や圧迫により手足の末梢毛細血管を収縮させ、末梢神経への抗癌剤曝露を減少させることによる効果と考えられます。

華井らは冷却グローブおよびソックスを用いてパクリタキセルによるCIPN予防に関する質の高い研究結果を報告しました<sup>2)</sup>。一方、露木らは管理が容易な手術手袋を用いてアルブミン懸濁型パクリタキセル(nab-パクリタキセル)によるCIPNの予防効果を検討しました<sup>3)</sup>。

表1 一般的にCIPNに用いられる薬剤

薬剤名	推奨度	副作用
ビタミンB <sub>12</sub> 製剤	3D	5%未満：食欲不振、悪心、下痢など
プレガバリン	3D	20%以上：めまい、傾眠など
牛車腎気丸	4B	発疹、食欲不振、悪心など
デュロキシセチン	2B	20%以上：傾眠 10%以上：悪心 5%以上：高血糖、めまい、倦怠感など
非ステロイド性消炎鎮痛薬	3D	胃腸障害、腎機能障害など
オピオイド	3C	眠気、悪心、食欲低下など

【推奨度】

2B：投与することの弱い提案、効果があるという中等度のエビデンス

3C：投与することの有効性は明らかでない、低いエビデンス

3D：投与することの有効性は明らかでない、非常に低いエビデンス

4B：投与しないことの弱い提案、効果は否定的であるという中等度のエビデンス

(文献1および各添付文書より作成)